

航空用語における英語 専門用語の性質

堤 俊 紀

序文

私は、本論文において、航空用語における英語について論じていきたい。また、専門用語に限らず、飛行機に関連する単語を取り上げ、英語の歴史の中でどのような変化が起こったのかということにも着目していく。

私が本論でこのようなテーマにした理由は、就職活動における自分自身の仕事選びに深く関わっている。私は世界の人々を直接つないでいる、飛行機というものに強い憧れを抱いたことから、航空業界を志すようになり、その結果、航空関連の仕事に就くことが決まった。その就職活動と今現在大学で学んでいることを少しでも結び付けようと、この論文を執筆することを決めた。

世界の共通言語といわれる「英語」であるが、航空業界の就職活動を進める中でこの業界の用語に多くの英語が用いられていると実感した。例えとしていくつかの職種を挙げてみると、有名なところでは、パイロット (pilot)、キャビンアテンダント (CA/cabin attendant)、グラウンドスタッフ (ground staff)、などがある。もちろん操縦士や客室乗務員など日本語としても聞かれる業務だが、カタカナ語、つまり英語をそのまま借用している場合が多い。また、日本においてだけではなく、全世界で航空用語における英語の地位というもの是非

常に高い。ICAO（国際民間航空機関）のきまりで「管制用語は英語又は母国語とする。」ということになっており、英語は国際航空用語として用いられている。

このような航空用語を英語語源の観点から遡り、どのような変化を起こして、航空用語として定着したのか論じていきたい。航空用語の中での英語の使用はもちろん政治的な力もある中で定着していったと考えられるが、その中でも言語としての英語をとらえることで、英語が航空業界での共通語である意味というものを見つけ出す。また、航空用語として使われている英語の語源をいくつか遡ることで、英語の変遷の歴史をたどるとともに、航空の変化というものを実感できると確信している。

第一章

この章では、航空用語の語源を紐解いていきたい。航空語の語源を調べるうえで、JALのホームページに掲載されている「航空豆知識」¹の中で、「飛行機には船に倣った用語が多く残っている」という記述があった。そこで私は『航空実用ハンドブック』などの資料と、『海に由来する英語辞典』とを比較し、ともに共通する単語を取り上げた。

以下の語群が上記と共通する単語である。文章中の語源は『海に由来する英語辞典』『英語語源辞典』による。

◆アルファベット順

aboard, arrive, board, cockpit, craft, crew, departure, ditch, hatch, navigation, pilot, port, purser, ship.

これらの言葉の中には、そのまま飛行機に置き換えし多少意味が変化したもの①、複合語として航空用語になったもの②がある。

- ① aboard や board は本来、乗船する、という意味であり、飛行機が対象になると、搭乗するという意味に置き換わる。同じように、arrive や departure、launch などの言葉も飛行機に置き換え使用されている。また、船のパーツを表す、cockpit、hatch も飛行機に置き換えられている。cockpit はカタカナ語としても馴染みが深く、操縦席の意味として使われている。この言葉は変遷が多く、cock 鶏を pit 囲いの中にしまうという意味だったが、そこ

から派生し狭い閉ざされた空間という意味が生まれ、それが船の操舵室、飛行機では操縦室となった。hatch も船では船内への昇降口、飛行機では出入り口と置き換えられた。船乗りを意味する crew は同じように飛行機の乗務員という意味になった。その中でも機内事務の長を purser と呼ぶ。これは船乗りの中で会計業務のできる人間、すなわち purse (財布) を握っていた者のことを言い、位の高い人間という意味に転じた。pilot は水先案内人という、船舶の操作において深い知識を有している人の意味が転じ飛行機の操縦士という意味でつかわれている。さらに、船と飛行機で操縦術という言葉は navigation という単語で共通しているが、これも船に関する英語であり、「船がある場所からある場所へ安全に導く術」という意味が原意である。ラテン語で「船を動かす」という意味の navigare が変化し、現在の形になった。初期近代英語で船を意味する navy は navigate、navigator など航行するという意味や、航海士、飛行機では航空士という意味にもなっており、カタカナ語としてもナビゲーターという日本語は馴染み深いものになっている。

- ②船の言葉で、craft、port、ship、という言葉は航空用語においてそれぞれ、aircraft、airport、airship という共通して「空」を意味する air という単語が付加された複合語となっている。craft、ship、という言葉には air という言葉を付け加えることなく飛行機という意味を持っている。その言葉の使い分けは使用者の立場によって異なっていくものである。もちろん船乗りが craft と言えばそれは船を指す言葉になり、キャビンアテンダントや空港の職員が言えば飛行機を指す言葉になる。この同音異義語である言葉を船や飛行機に精通していないわれわれが使う際に、はっきりと線を引くためにも air という付属語は重要になる。これをつけることにより、両者の混同を防ぐことになる。もちろん借用している側の航空用語にのみ語の変化は現れてくる。港という意味の port に air をつけることによって、空港という言葉になる。この非常にシンプルな変化には言及する必要はないだろう。しかし、余談ではあるが、港から空港への借用は文字以外のところでも行われている。飛行機を利用した人ならイメージがつくかもしれないが、飛行機に搭乗する際、基本的には飛行機の前方向かって左側からしか乗り込むことはない。これは船の時代からの名残で、船も港に着く際は船先に向かって左側を港につける。これは船には舵板というものがついており、それが船の右側に配置されていたため、港には左付けで寄港していた。

ここまでで航空用語の多くが船舶に使用される言葉を借用していることがわかった。船の設備はもちろんのこと、乗員の名称、船の動作にかかわる用語や港などの周辺設備から使われていた。さらには語源を調べることで、日本語としては同じ意味の ship と craft との微妙な意味の変化にも気づかされた。日本語訳では同じ、船。airship や aircraft としても飛行機として訳されるだろう。しかし、本来の意味では大型の航洋船を ship と呼び、小型船を craft と呼ぶという違いがある。同じように airship と aircraft も前者が大型の飛行機、後者を小型の飛行機という区別がある。このような違いに気づくことができたことは語源を調べる上での重要な意味をもつと感じる。両者の言葉の借用には、それぞれの歴史的存在意義が深くかかわっている。ship とは帆船時代、大雑把ではあるが、風力を利用して推進する乗り物のことを言われた。同じように飛行機も風力を利用しているため、ship として位置づけられるのだ。だがそれだけで言葉の借用が行われたのではないと感じる。人々が現在の各大陸に渡り始めた時代から船は重要な移動手段であった。もちろん海を隔てた各国に人やものを輸送する手段は昔、船が主流であった。そして技術が進歩していく上で空を高速で移動する飛行機が誕生した。二つのものは移動手段で異なるものの、海を横断し人やものを輸送するという重要な手段に変わりはない。その歴史的意義とともに、言葉も借用されていったのだと考えることが妥当だと私は考える。

第二章

ここまでで航空用語は同じ乗り物のはしりである船の用語を多く借用していることがわかった。さらには②であげたように複合語として、航空用語に定着していったものがあることがわかった。そこで、ここからは複合語としての航空用語を取り上げていきたい。

航空用語に関連するもので、複合語として使用される言葉には、air-、jet-、といったものが多い。Goo 辞書²で検索したところ、jet が含まれる航空用語は、jet lag、jet plane、jet liner、jet port、jet way とそれほど多くはないように思えたが、air が含まれる航空用語は非常に多かった。以下、日本語訳を含め Goo 辞書、『英語語源辞典』による。

◆ air が含まれる航空用語

aircrew、air drome（昔の飛行場）、air fare、air field、air flow=air stream（飛行機が起こす気流）、airfoil（飛行機の翼）、air frame（飛行機の機体）、airline（定期航空会社）、airliner（定期旅客機）、airplane、air miss（飛行機同士の異常接近）、air coach（普通旅客）、air express（航空特急便）、air hostess、air lane（航空路）、air letter=air mail（航空郵便）、air map、air passage（飛行機旅行）、air piracy=hijacking、air route、air scoop（飛行機の空気取り入れ口）、air service（航空運送）、air shuttle（定期航空便）、air taxi（不定期単距離小型便）、air-speed、air traffic control（航空管制）、air traffic controller（航空管制官）、air ship、air strip（滑走路）、airsick（飛行機に酔う）、airsickness（飛行機酔い）、an airsickness bag（飛行機用の吐き袋）、air way、air side（空港内の関係者用施設）、air way bill（航空貨物受取証）、airworthy（飛行機が安全に運航できる、耐空性のある）

このように航空用語の中には空などの単語と組み合わせた専門用語が多く存在する。ここからは、このような複合語と関連させ、日本語訳的には同じ言葉や、上記の複合語以外で違う言葉で表現されるものの比較、調査を行いたい。まず、前述した複合語に付いている jet、air の語源について触れておきたい。

◆ jet

jet はラテン語 jacere（投げる）からフランス語の jeter（投げ出すこと）からの意味の移転によってものを噴出す口という意になった。そして気体を噴出するジェットエンジンの意味を経てジェット機を指すようになった。

◆ air

air は空や大気、空気をあらわし、技術の進歩により飛行機、航空機の登場とともにこれらに air という字を当ててようになった。air と aero と二つの表記があるが、それはイギリス英語かアメリカ英語の違いである。アメリカの場合 air。イギリスの場合 aero。この違いはアメリカがイギリスから独立したことによる違いである。アメリカ独自のアイデンティティ形成のためにイギリスのつづりを変化させ、より発音に近いつづりとして作り上げた結果、このような違いが生まれた。

① 飛行機

jet plane, jet liner, air plane, aero plane, plane, air ship, air craft.

plane・一般的に飛行機全般を指す。jet- ジェット機。air-、aero- 航空機全般を指す。

liner・定期航空機。jet- ジェット機の定期航空機をさす。

ship・原義の船から、飛行船を指す。航空機だけではなく、広く使われる。

air- 旅客機に限らず、飛行船も含まれる。

craft・第一章で示したように、小型船を意味する。air - 軽飛行機。

②空港・飛行場

jet port, air drome, air field, air port.

port・港の意jet- ジェット機用の空港。一般的な旅客ターミナルがある空港。

air-jet portの意味ももち、旅客にかかわらない飛行機の離発着を行う飛行場もさす。

drome・air- 口語表現で飛行場。主にアメリカで使われる。aero- イギリス

③航空航路

air lane, air way, sky way, air route.

それぞれ、決められた航路という意味での、way、lane、routeという言葉が割り当てられおり、具体的区別はない。だがair laneの略式がsky wayであるため、air laneの方がより公式なのだろう。

④乗組員

air crew, air hostess, flight attendant, cabin crew, cabin attendant.

crew・船舶の時代から船員という意味で使用されている。air- の場合だと乗組員の区別がなく、乗客ではないpilot、co-pilot、flight attendant全体をさす。一方で、cabin- の場合、客室乗務員に絞られる。それはcabinの意味がこの場合、客室となるためである。cabinは基本、機内全体の機室をさすが、この語と使用された場合は客室となる。

hostess、attendant・両単語ともに、接客係という意味を持つが、hostessの場合女性名詞であるため、現在ではあまり好まれなくなっている。以前であれば、客室乗務員は女性が大半を占め、女性の仕事というイメージが先行していたが、男性もこの仕事に就くようになってきた。また、男女で仕事の名前を変更することは現代において性差別の対象となり好ましくない表現となっている。また、私たちにとって馴染みの深いCA (cabin attendant) はアメリカ英語ではなく、和製英語である。アメリカではflight attendantが一般的な呼称となっている。

⑤ (飛行機が生み出す) 気流

air flow, air stream

flow, stream・ともに古英語の時代から、流れるという意味を持ち合わせており、飛行機エンジン部の回転するプロペラが生み出す流れ、気流と合致する。air stream は高層の気流を表しており、比較的激しい気流のことを言う。

⑥ 航空郵便

air letter, air mail

letter・元は文学や学問という意味で使用されており、その名残から現在では手紙という意味が一般的である。air- の場合は飛行機で送る書簡である。

mail・原義が袋や旅行袋だった mail は郵便というシステムが確立する中で郵便袋という意味を持ち、郵便物そのものの意味へと変化した。air- は air letter とは異なり、航空郵便の荷物という意味で解釈されるため、飛行機の輸送物全体をさす場合などに使われる。

⑦ ハイジャック

air piracy, hijacking, pirate, skyjack

pirate・元はギリシャ語の peiran(攻撃する)の名詞形 peirates が海賊となり、英語に流入した。海賊は船に略奪目的で攻撃を仕掛けるが、同じように航空機に乗り込み混乱に陥れることから air- または pirate と呼ばれている。

hijack・カタカナ語でもハイジャックという言葉は一般的である。飛行機の乗っ取り行為であるこの言葉は、high (高所) での jack (乗っ取り行為) として認識されている。しかし、語源は hijacker であり、highway(ハイウェイ)での jack (不法に盗む行為) +er、または jacklight (夜間狩猟や釣りの時に獲物をおびき寄せる)³ + er であると考えられ、時の経過とともに今の意味に変異したと考えられる。そのため、現在では skyjack という言葉があり、航空機略奪を意味している。

以上のように、日本語訳では同じ意味となるものの微妙な違いを検証した。air- の複合語は基本的に続く語の意味を理解していれば、意味がくみ取れるものが多いように感じる。しかし、いくつかは私たちにそれほど馴染みの深くない訳が行われている。それが、air miss, airline, air coach, air passage である。
・ air miss は飛行機同士の異常接近という意味だ。miss という単語には、失敗

という印象が強いが、事故などの悪いことから免れる、逃れる、避ける。という意味も含んでおり。この場合、飛行機同士の事故を避ける、という意味で異常接近という意味になったと考えられる。

- ・ **airline** は日本語としても一般的で、その意味を理解できない人も少なくなっているだろう。line は一般的意味において線であり、それは本来の意味である紐、糸からきている。ここから紐状のものや、線状のものを指示し、線上で引かれた路線、または航路、航空路という意味を持つようになった。
- ・ **air passage** は両側が壁になっている狭い小道などの意味を持ち、通路を通過すること、通行の権利をさし、移住、旅という意味になった。
airsick と **airworthy** に関しては飛行機のみならず、ほかの乗り物にも使用されている。
- ・ **sick** は病気という意味だが、乗り物に関連すると乗り物酔いという意味になる。**airsick** (飛行機酔い)、**seasick** (船酔い)、**trainsick** (電車酔い)、**carsick** (車酔い)、**travelsick** (乗り物酔い) がある。同じ乗り物として、同じ単語を使用した複合語が存在している。
- ・ **worthy** にも同じように類似した複合語が存在する。**airworthy** (耐空性のある)、**spaceworthy** (宇宙での航海に耐えることのできる)、**seaworthy** (海原での航海に耐えることができる)、**roadworthy** (路上使用に適した、人が旅行できるほど元気な)。この単語には乗り物のみならず、**crashworthy** (耐衝撃性能のある) という意味にも使われ、**worthy** の本来の意味である、価値のある、という言葉から多くの複合語として使用されている。

この章では航空用語における複合語に関して論じてきた。また、日本語訳的にはさほど差のないもの同士の言葉の比較を行った。まず複合語に関して、航空用語においては一つのカギとなる言葉によって多くの表現が可能になっていくことがわかる。それが、**air** であり、**jet** だ。この二つの言葉は専門用語内で意味には出ずともそれぞれ、飛行機の、や、ジェット機の、というニュアンスを付加する役割を担っている。比較的新しい分野の航空業界においては、専門用語が最近生まれたものが多く、それを表現するために、既存の言葉に航空を表す単語を付与している。第二章の冒頭で挙げた言葉の中にはそれほど難解な言葉はふくまれていないように見え、そのような語形成にすることで、新しい言葉でも意味の理解がスムーズにできるという利点がある。また、同じ運輸業の言葉である船の言葉を借用し、まったく新たな言葉もあまり生まれることも

なくなっている。さらに、船舶やほかの乗り物や、運輸業の言葉でも複合語として航空の表現をつけ加えることで混同を防ぐ役割を担っている。

昨今では様々な情報伝達方法や、技術の発達によって新しい言葉が次々に生まれている。特に国際語である英語は世界各国の言葉を表示しなければならぬ。そこで、本章で取り上げた複合語とは、その新しい単語に触れる人間としては非常に有効な手段だと感じる。全くもって新しい言葉を生み出すには相当な労力を必要とし、理解する側からしても難しい問題となる。そのため、既存の言葉を組み合わせて生み出す複合語であればキーワードの組み合わせで成立し、理解する側もそれぞれの言葉の知識だけで賄うことができる。上記にある航空用語のように、それほど専門的な単語の使われていない用語であれば、その分野に精通していない人間から見たとしても理解できるというのは大きな利点である。

第三章

この章ではこれまで扱ってこなかった航空の専門用語を取り上げていきたい。なお、ここで取り上げる英語の用語は、『航空実用ハンドブック』『航空英語とジョーク』『エア・ステージ12月号』より選出した。その中で語句を日本語訳した際航空特有の言葉、他の分野でも使われる言葉に分類し研究していく。

◆取り上げた航空用語

air bus, air carrier, alliance, approach, auto-pilot, aviation, avionics, baggage, bird strike, bleed, booking, cabotage, code sharing, chop, company mail, commuter, completer, departure, destination, dirty, discrepancy, dispatcher, ditching, downwind leg, dump, flag carrier, foot point, general aviation, go around, guzzler, holding, hanger, hospitality, landing, landing field, load, mobile lounge, marshaling, overshoot, passenger, refuel, runway threshold, satellite, seasonality, shimmy, shuttle, skid, slot, squawk, turbulence, taxing, technical landing, turn-around times, undershoot, waypoint.

上記 55 の語句を二つの区分けに分類していきたい。

◆日本語訳した際、航空特有の言葉

air bus, air carrier, approach, auto-pilot, aviation, avionics, bird strike, bleed, cabotage, code sharing, chop, ditching, downwind leg, dump, flag carrier, foot point, general aviation, guzzler, holding, landing, landing field, mobile lounge, marshaling, overshoot, runway threshold, satellite, skid, slot, taxiing, technical landing, undershoot, waypoint.

ここに挙げた語句は、共通点としてももちろんのこと、飛行機に直接触れる言葉である。

飛行機の種類や、飛行機内の設備、飛行中の飛行機の状態、周辺環境、航空の設備、航空会社の区分けなど、特になじみの深いものは単語や言葉の中に全く新しい意味として航空用語になっている。以下記載の用語分析。

- ・ air bus (交通量の多い区間での低運賃、中短距離の飛行機) は現在世界の二大航空機メーカーの名前ともなっている。bus という言葉を借用しており、前章で述べたように、わかりやすい表現である。
- ・ air carrier (航空会社)、flag carrier (国有航空会社)、aviation (航空産業、航空)、general aviation (一般航空)、code sharing (共同運航便) /company mail (会社関係の郵便物。飛行機に搭載して送付可能)。ここにまとめた言葉は主に航空会社で使用される言葉である。carrier は carry の派生語であり、元の意味は運ぶ人。carrier という言葉は運送業の会社を表し、鉄道や汽船会社などもさす。flag とは国旗を意味し、国有会社は flag carrier や national flag carrier と呼ばれる。aviation とは航空技術、航空産業を表し、この産業が生まれたのはここ 100 年ほどの期間内であるため、非常に新しい言葉である。語源はラテン語の avis (鳥) から来ている。general aviation は一般航空と呼ばれるが、私たちが利用するような定期航空便ではなく、レジャー目的などで使用される飛行機を指す。code とは世界各国の各航空会社に割り当てられた、二文字のアルファベット⁴のことを指す。例として日本航空は JL。全日本空輸は NH。これを share (共有する) ということになり、異なる会社同士の共同運航という意味になる。company mail は航空会社特有の表現で、その航空会社の郵便物を自社の飛行機に搭載し、他の地域や企業に送付できるというものである。主に空港で働くグランドスタッフが使用する言葉で、荷物の場合は company material と表現する。
- ・ approach (飛行機が滑走路に進入すること)、bird strike (機体やエンジンに

鳥が接触すること)、bleed (抽気する)、chop (飛行機の揺れ)、ditching (不時着)、dump (飛行中に燃料を放出する)、guzzler (燃料消費の多い飛行機)、holding (空中待機)、landing (着陸)、overshoot (目標を越えて停止すること)、shimmy (飛行機の異常な揺れ)、skid (ブレーキをかけたまま地表を滑ること)、turbulence (乱気流)、taxing (飛行機が自力で空港内を移動すること)、technical landing (乗客、貨物の積み下ろしを伴わない着陸。主に抽気のためのもの)、undershoot (滑走路の手前に着陸すること)。

ここにまとめたものは、飛行機の動作に関する用語である。専門用語ではこのような部類のものが多くみられ、飛行機の場合であると近年新技術であるため、動作にこれまでになかった多くの言葉を必要とすることがわかる。しかし、動作に関する用語には air などの複合語を伴い、飛行機の動作であることを明確に表すことはあまりないようだ。

chop と shimmy は日本語訳的にはほとんど違いがないが、なぜ言い換えが行われているのだろうか。chop には意見が変わるといふ、原意から風向きが変わるといふ意味が生まれた。それを航空の現場で使えば、風向きが変わり飛行機に揺れが生じるという言葉になった。一方 shimmy は車などの前輪の異常な揺れという意味から、飛行機の同じように前方に備え付けられている、車輪の動作による揺れを指している。同じ揺れでも用語の中で細かい区別が行われていることがわかる。guzzler という単語は本来大食漢の意味をもち、そこからの派生で車の燃費が悪いという意味で使われている。同じ乗り物である飛行機にも転用されたのだろう。taxing は taxi (飛行機が飛行場内で徐行する) という意味である。taxi からどのようにそのような言葉が生まれたかはイメージし辛いですが、タクシーが客を探す際に街中を徐行している様子が、飛行機のゆったりと航空内を移動する姿と重なることからこの言葉が生まれた。overshoot と undershoot 二つの対義語があるが、互いに shoot という単語は的を狙って射ることを指している。そこに over や under という前置詞を付与することで的を外した様を表す。over は的を越えてということになり、飛行機に当てはめれば駐機地点を超えることを意味し、under であれば駐機地点に満たないことを意味する。

・ avionics (航空機用電子機器)、despatcher (運行管理者) landing field (滑走路)、marshaling (誘導)、mobile lounge (移動式待合室)、satellite (サブターミナル)、waypoint (計画飛行ルート)。

ここにはその他の独自の航空用語をまとめた。landing field、mobile lounge、

satellite は空港の施設である。空港内にはこのほかにも多くの施設があるが、ここではこの三つの施設を扱う landing field は飛行機の離発着には欠かせない滑走路である。陸を意味する land は陸を確認するという意味でも使用され、陸上するや飛行機では着陸するという意味として使われている。mobile lounge⁵ は一般的に空港にある、待合室とは違い、車両の中に待合室を作ったものである。飛行場内を移動し、そのまま飛行機にドッキングし、乗客は飛行機に乗り込む仕組みとなっている。mobile lounge は世界の空港でも普及している場所は少なく、真新しいものであり、この言葉も新しく作られた航空用語である。satellite とは従者、お供という原意から現在では衛星という意味でつかわれているが、空港で使われていた場合にはサブターミナルを意味する。サブターミナルとは、メインターミナルを除いた飛行機の駐機場である。一か所に飛行機が集中し混雑を避ける役割にもなっている。satellite とは特殊な表現だが、語源を考えると理解が促されたと感じる。despatcher とは航空会社に勤務し、すべての便のフライトプランを作成する役割の人を指す。もとは軍隊を派遣する人の意味であり、出発許可を出す役割を果たしていた人を指すことから、フライトプランを立てる人の意味として使われている。また marshalling という言葉も飛行場内で使われる言葉である。marshal とは、そもそも宮廷などの高官を示す言葉であった。その高官が兵士に指示を出し、整列させることから動詞が生まれた。航空用語では飛行機を誘導するという意味で使われている。誘導する作業員のことを marshaler と呼ぶ。avionics は航空用語として生まれた新しい言葉である。avionics とは aviation（航空）と electronics（電子機器）を合わせて作られた用語である。飛行機に搭載されている電子機器独自の名称となっている。

◆他の分野でも使われる用語

alliance, baggage, booking, cabotage, commuter, completer, departure, destination, dirty, discrepancy, go around, holding, hanger, hospitality, load, passenger, seasonality, shimmy, shuttle, squawk, turbulence, turn-around times.

ここでは他の分野での使い方の違いを比較しながら分析する。

・alliance（同盟関係）/hospitality（親切なおもてなし）

alliance という言葉は現在、様々な企業分野にわたって使われる言葉である。

例えば、ある企業間同士で *alliance* を組んだ場合だと互いが協力し事業を行っていく体系で、各々の専門分野などで手助けをしあうという利点がある。一方で航空の分野であると、事業が世界全体をカバーしなければいけないため、一社のみでそれを賄うことが困難になる。そのため、*alliance* を組み、他社間の乗り換えを可能にし、乗客の利便性向上に努めている。*hospitality* は無償での気遣いなどを意味する言葉だが、これは航空業界に限らず、サービス業を営む企業では注目される言葉である。特に日本企業では他国の儀行よりもサービスの質というものを高めて付加価値を生み出すものが多い。航空業界では特にその重要性が求められており、*hospitality* は不可欠な言葉として位置づけられている。

baggage (手荷物)、*booking* (予約する)、*cabotage* (国が国境内の航空交通を統制する権利)、*commuter* (通勤、通学者)、*departure* (出発、出発便)、*destination* (目的地)、*discrepancy* (不具合)、*go around* (往復)、*load* (荷物の搭載)、*passenger* (乗客)、*shuttle* (二点間を頻繁に行き来すること)、*snag* (不具合)、*squawk* (不具合)。

ここでは航空業界に限らず、運送、交通、輸送、旅行などの関わりの深い業界でも使われている言葉を取り扱う。

baggage は旅行の手荷物という意味で使われるため、飛行機や船舶に限らず電車にも使用される言葉だ。電車で手荷物を置く網棚は *baggage lack* と呼ばれる。イギリスでは *luggage* と綴られる。意味的には一緒だが、*luggage* の場合、*lug* (力任せに引く) という言葉から、もとは引きずって運ばなくてはならないもの、という意味で、現在使われている言葉とは変わってくる。そのため、同じ意味でも *baggage* はまさしく手荷物、持ち運べるもののイメージ、*luggage* はキャリーバックのような、引きずる重い旅行鞆をイメージすることが適していると思われる。一方で *load* は飛行機や車両、船舶に搭載する荷物のことを指す。飛行機は飛行する際に重心が安定していないとうまく飛ぶことはできない。そのため、乗客や荷物のバランスを調整する *load controler* という役割が存在する。また、上記の単語には三つの不具合という言葉が出て来る。それぞれの違いについて論じて生きたい。この三つの言葉は『航空英語とジョーク』に記載されている、航空用語特有の表現の中では同じように「不具合」と書かれている。しかし、『ジーニアス英和辞典』で意味を引いてみると三つの

単語の中に不具合という意味はなかった。不具合に近い表現としては記載されている意味は discrepancy (不一致) /sang (障害、破れ) /squawk (鳥がガーガー鳴く) であった。だが、飛行機が不具合を起こした時の記録を取るものとして、aircraft discrepancy log というものが存在する。snag に関しては *Mcgraw-Hill Dictionary of Aviation*⁶ の中で、“An unserviceability or a fault condition in an aircraft or equipment.” とあり、航空用語では飛行機や機器の故障を意味している。squawk は異常を来した時になる音がぎーぎー鳴ることから、故障や不具合を意味する。意味的には初めの二つと同じなのだが、squawk の場合は用途が異なる。これはパイロットと管制官が交信の際に使う用語である。運行中に発生した異常を flight squawk、地上で発生した異常を ground squawk という。discrepancy と squawk は航空業で働く人々が仕事の中で使用されるため専門性が高いように思われる。snag に関して、原意は水中に沈んでいて船の進行を妨げるものという言葉があるため、この言葉も船舶の用語に由来する部分があると考えられる。航空用語の中にはこのように同じ日本語訳を持つ言葉があり、専門分野で働く人間にとって使い分けやニュアンスの違いの確認は欠かせないものであると感じる。commuter や passenger は普段利用する私たちに対して使用される言葉である。この二つは乗り物を利用する乗客を意味し、passenger の一部を commuter と言う。passenger とは船舶を利用する乗客が本来の意味なので、この言葉も船舶用語からの借用であるとわかる。また、commuter とは主に定期券を有しての通学、通勤者の意味であり飛行機には当てはまりづらいが、air commuter という小型路線機を意味した言葉があり、日本でも「日本エアコミューター」という会社がある。地方都市間や離島などをつなぐ路線を運航していることから、航空用語での commuter は遠い距離間での輸送ではなく、近距離間の輸送を表すものだと考えられる。departure、destination、go around、shuttle といった言葉は移動手段には欠かせない用語である。航空用語として使われている言葉であっても、交通に関しては航空業が発展する以前から成り立っていた。乗り物は違えどもそれぞれ依存し合った分野同士では言葉の借用は当たり前に行われている。cabotage の場合はこちらも船舶からの借用であり、規定に関する言葉を飛行機に関してもあてはめている。岬から岬への船の運航を表した言葉が、国内での航行という意味に転じたこの言葉は、現在国際法規として使われている。この言葉は国内輸送を、国内の企業に独占させることのできる権利であり、船舶に関しても、航空に関しても共通する決まりであることからそのままの言葉で使用されているのだと思

われる。

この章のまとめとして、振り返りを行う。まず、航空業界のみに使用される航空用語に関しては、航空をあらゆる単語によりその独自性を表していると感じる。それは前章でもふれたように air という言葉や avis (鳥) を表す言葉の使用である。この言葉の存在は言葉に飛行機の意味を付加させることができ、航空用語に転じさせることで専門用語を作り出している。一方 avis の転用からなる aviation や avionics はより専門的な用語として使われている。専門分野の間で使われている言葉というよりは、その専門分野自体を表す言葉となっている。air を用いる専門用語の場合は航空の意味を既存の言葉に付加して表現する形で航空用語を形作っていたが、専門分野それ自体を表す場合は既存の言葉を踏襲するのではなく、新しいものとして生み出された言葉を使用するのだと理解できた。

航空用語に分類されるが、その他の専門用語の中にも現われる言葉には、その分野の性質の共通点が窺える。航空などの輸送分野に関わらない、企業としての言葉 (alliance など) であるものは経済用語の借用である。企業間における取り決めや協力関係の用語は航空的ニュアンスを意味的に付加することはあれども、単語自体に表現することはないようだ。もちろん航空業界の会社だけにおける協定などにおいては、言葉の中に航空に関する表現は加えられる。近年アメリカで唱えられ、実施されている Open Skies Agreements⁷ (オープンスカイ協定) は航空分野に限られたものであり、文字を見るだけで容易に航空に関連する言葉だと想像できるものである。経済用語から借用された航空用語も航空業界に人間にとって必要な知識だが、航空業界とその他の運輸、運送業界との結びつきの深さはさらに重要なものである。運輸・運送業界の中で後発的な立場にある航空業界の言葉は、多くのものを他の乗り物の言葉から借用されている。それはお互いの依存関係に深くかかわっている。それは、乗り物は違えども乗っているものが同じであるということだと考える。海上輸送、陸上輸送、航空輸送それぞれ、われわれの移動するための足となり、またものを運ぶツールとなっている。世界の交通ネットワークが拡充する中で、国内でなければ、どれか一つの輸送手段で出発地から目的地までの輸送は不可能になっている。日本のような島国であれば、国内だけでも難しくなっている。そのように強い依存関係を持った業種同士は言葉に関しても同じ表現を使っている。共通する意味を持つ言葉は、すでに他の業種で使われている言葉を使われてい

る。もちろん、どの業種の言葉を意味するかによってその言葉自体のニュアンスは変化しているが、借用によって新しい言葉を生み出す大きな労力も削減することができ、理解する我々にとっても言葉を覚えていく上では助かることである。⁸

第四章

ここまで、それぞれの視点に分けて航空用語を分析してきたが、その中で、*aeroplane* と *airplane* や *baggage* と *luggage* など、航空用語の中でもイギリス英語とアメリカ英語の中で綴りのズレが生じていた、ここではその違いについて詳しく探っていきたい。まず航空用語にも使用される英語で、イギリスとアメリカで違う言葉を使用しているものをあげていきたい。

◆イギリス英語とアメリカ英語で綴りが異なるもの（『航空英語とジョーク』より）

（左から、イギリス英語、アメリカ英語、日本語訳）

- ・ *aeroplane* / *airplane* / 飛行機
- ・ *aluminium* / *aluminum* / アルミニウム
- ・ *bay* / *gate* / 搭乗口
- ・ *cock* / *valve* / 弁、バルブ
- ・ *luggage* / *baggage* / 荷物
- ・ *overshoot* / *go-around* / 滑走路を飛び出して停止すること
- ・ *port* / *left hand* / 左側
- ・ *return ticket* / *round trip ticket* / 往復券
- ・ *starboard* / *right hand* / 右側
- ・ *tyre* / *tire* / タイヤ
- ・ *undercarriage* / *landing gear* / 降着装置

上記したように航空関連でも使用される英語の中にも、イギリス英語とアメリカ英語によって異なった綴りとなっている。義務教育で中学時代から英語を学び始めた私たちは、アメリカ英語を学習し続けていたため、アメリカ英語側の綴りであるとしっくりくると思われる。この単語を見比べると、使用されている単語が違うものや、微妙に綴りのずれがあるものがあるとわかる。ま

ず、bay、port、starboard のアメリカ英語とはそもそも使用されている単語が違うものの用語解説を行いたい。これは第一章で述べたように、船舶用語からの借用と言える。bay は湾を意味し、船に乗り込む場所だったため、飛行機に転用し搭乗口となった。また昔の船は港に寄せる際、船首に向かって右側に starboard (舵) があったため、左側を port (港) に寄せていた。そのことからイギリスでは左が port、右が starboard となっているのだろう。ではなぜこのような違いが生まれているのだろうか。そこにはイギリス英語とアメリカ英語の本質的違いが大いに関連している。イギリス英語は古い綴りを受け継いでいく傾向が強いのに対して、アメリカ英語は改革、合理化の意識が強い。その視点を持ち、上記の航空用語を見ていくと、その印象が色濃く出ていることがわかる。航空用語の多くは船舶用語の借用からできたものが多く、イギリス英語を見てみると、古くから受け継がれている船舶用語を使用していることがわかる。一方でアメリカ英語を見ると非常に合理的である。語句説明を行ったイギリス英語に対するアメリカ英語は単語の意味のまま理解することができ、イギリス英語のように意味の理解に背景知識を必要としないものであるとわかる。また、微妙な綴りの違いにも両国間の言葉の違いが出てきている。伝統的な綴りと、合理的な綴りの違いは発音の影響も大いに受けている。アルミニウムやタイヤなどはアメリカ英語のほうが、より発音記号に近いものになっている。二国間にはこのように言語形成の意識の違いが生まれているが、その原因はいったい何なのだろうか。それは、アメリカがイギリスからの独立国家であるということが要因である。イギリスの植民地だったころのアメリカは、重税を押し付けられ生活が苦しくなる人々が増加していた。そこで、アメリカに移住していた人々の中で、イギリスからの独立を唱えるものが現われ、そのことからアメリカ独立戦争が勃発した。その戦争に勝った後のアメリカは政治的独立を果たすだけでなく、言語面でも独立を目指した。それが言葉の改革や合理化である。中でも、辞書の編纂家であるノア・ウェブスター⁹ は綴り字改革運動を強く押し進めた。イギリス英語の発音と綴り字のずれに強い疑問を抱いた彼は多くの単語の単純化を図った。大石五郎著の『英語と米語』の中には、愛国心の強い彼は「アメリカは名誉ある独立国家だから政治的にはもちろん、言語においても独自の提携を持つべきであり、その場合英国の英語はもはや基準とはなりえない。なぜなら、その英語は衰退しつつあるからだ」と “Dissertation on the English Language” という論文で述べているという文がある。そのためアメリカは独立後、ウェブスターの強い影響を受けて、イギリスとは異なる表

記の英語を生み出していった。イギリス側は保守的であるという傾向から、変質したアメリカ英語を受け入れようとするのではなく、逆に排除しようとしたのである。独立という歴史が現在の両英語の違いを生み出す原因となったのだ。航空用語にもその影響を受けてイギリス英語とアメリカ英語の違いが出ているのだ。

第五章

ここまで、航空用語の様々な特徴について研究したが、実際に私たちが目に触れる航空英語はどのようなのだろうか。特に日々起こる航空関連のニュース記事では航空用語の表現方法や、イギリス英語とアメリカ英語の中に違いは出てくるのだろうか。ここでは、イギリスの公共放送局である BBC とアメリカのニュース専門放送局で、国際放送も手掛ける CNN の類似した記事を取り上げていく。それぞれ四つずつ、計 8 つの記事を取り上げ比較していく。できるだけ新しいものを取り上げ、世界的にも大きなニュースを見ていきたい。

- ◆ BBC ・ 10 October 2013 Last updated at 08:23 GMT ・ Boeing Dreamliner: two JAL flights diverted after glitches¹⁰
- ◆ CNN ・ June 28, 2013—Updated 1135 GMT (1935HKT) ・ Japanese Dreamliner held due to A/C power glitch¹¹

この二つの記事は、ボーイング社の新型旅客機 787 が不具合を起こし、飛行を中止したというものである。両放送局ともに日本の航空会社のことを取り上げており、私たちの目にもふれやすいものだと感じる。まず、この記事の背景として高性能技術を搭載したボーイング 787 型機を早い段階から購入していた日本の大手二社が、繰り返しその機体で不具合を起こしていたということがある。まず、BBC の文章だが前章で触れたようなイギリス英語 *aero* は使用されておらず、すべて *air* という表記になっている。そして、注目すべきは表現方法の豊富さであると感じる。日本語訳を行えば同じような表現になるものも、いくつかの言いかえで表記を行っている。題名にある *diverted* だが、方向転換をするや、着陸地を変えるという意味で、これと同じように使われているのが、*emergency landing* ・ *turn around* ・ *turn back* と表現を変えている。緊急着陸や、出発地への出戻りなど同じ言葉でも語彙を豊かに使用している。他に

も、divertedと同じように題名で使用されている glitches (故障) は technical problems · electrical glitch · battery problem · battery fault と文章を進めていくごとに故障の詳細が理解できるような表現となっている。特に豊かな表現方法を感じるものが、その飛行機がどこを出発し、どこに向かうものかを表現したものだ。最初に出てくるものが Tokyo-bound flight that took off from San Diego。それに続くように Tokyo-to-Singapore flight 次に Moscow to Tokyo とある。もちろんどのような品詞として使われるかによって形は変わっていくが、同じ意味でも変化が豊かであると感じる。この文章を見る人によって、同じことの繰り返しを避けた知的な文章であると感じる人もいれば、同じ言葉を繰り返した方が楽に読めると感じる人もいるのだろう。また、記事冒頭に anti-ice system とあるが、これは『航空英語とジョーク』の中で新造語として取り上げられている。単純に訳せば、凍らないようにするシステムだ。非常に高い高度を飛行する飛行機にとって、機械の凍結は命取りになる。そのためこの機器によって凍結を防いでいる。高度な技術を必要とする飛行機だからこそ、新しいものが生まれ、新しい言葉も必要になるのである。CNN の記事に関して、まず初めに目を引いたのが BBC の記事では technical problem となっていた部分が mechanical problem となっていた点である。記事内での呼称に関しては同じ内容であるのになぜこの違いが生まれるのだろうか。ここにはアメリカ英語とイギリス英語の差はないように感じられる。お互いに科学技術的、機械的要素を孕んでおり、この違いは書き手の違いによって生まれたものではないだろうか。さらに CNN の文章の特徴として、故障箇所について、a problem with the power supply to... や a problem with its break indicator や an indicated problem with its oil filter と記し、最後の事例で due to a “low oil indication” と変化を加えている。この変化は単調な文章の一区切りとして、締める役割を果たしているのではないだろうかと考える。事故の事例をいくつか挙げた後に、それぞれの事件の対応としてつながるため、話の切り替わりの目印になっているのではないかと私は考える。CNN の記事の題名に見慣れない A/C という文字がある。これは真ん中の / が省略の意味を表している。文章中から、全日本空輸の飛行機は air conditioning system が原因で故障を起こしたとあるため、A/C は air conditioner となる。例として W/O で without を示すことなどがある。

◆ BBC · 26 November 2013 last update at 15:57 GMT · Two Japanese airline to disregard China air zone rules ¹²

◆ CNN・December 1, 2013—Updated 0103 GMT(0903 HKT)・U.S. airlines comply with China's demand for notice of flights through zone¹³

続いて、政治問題の絡んだ航空記事を取り上げていきたい。この文章の背景知識として、中国が日本領空も含めた防空識別圏を新たに設定し、その地域を通過する飛行機に対して、フライトプランの提出を求めたことに端を発する。日本は自国の主張する領空のため、フライトプランの提出は行わないものとして、主要航空二社はそれに従い、一方でアメリカは安全を優先し、フライトプランの提出をした。この二つの文章は航空業界が人や物を各国に送り届けるものだけでなく、政治の分野でも重要なつながりであることを示している。BBCは日本と中国の関係に重きを置いている。この記事でも、言葉の言い換えは行われており、主題である防空圏は air defense zone や air defense identification zone と使われている。航空関連のニュースであるが、航空用語に難解なものはない。しかし、政治問題が絡んでいるため、航空に関連する省庁 Transport Minister や Foreign Minister が登場する。また、air zone や air space と航空業には関わりが深い領空の文字も見られ、世界と繋がった空であれ見えない区切りが存在することを印象付けさせられる。CNNの記事にはより緊迫感を感じさせられる内容となっている。それはおそらく、アメリカもフライトプランの提出を求められたことと、文章中に出てくる旅客機ではない飛行機の単語である。それは、fighter jet、military flight、troops、military aircraft、warplane、radar aircraft。これは今までの単語の言い換えと同じように、戦闘機の言い換えで使用されている言葉だが、これほど多くの軍事用の飛行機が登場すると、今回の中国が設定した防空識別圏の問題が、戦争の引き金になりかねないと示唆しているようにさえ感じてしまう。数か国が絡んだ問題のため、各国の中央政府が地名で表されている。Beijing（北京。中国政府）Washington（ワシントン。アメリカ政府）Tokyo（東京。日本政府）とそれぞれなっていた。しかし、韓国だけは South Korea となっており、Seoul とは表記されていなかった。これは他の三国と比べ首都に対する認識の低さのせいだろうか。さらにCNNの記事で注目したいものが、ICAO（International Civil Aviation Organization）、FAA（Federal Aviation Administration）である。これは国際民間航空機関と連邦航空局の意味であり、国際線の飛行機の運航には非常に重要な機関である。さらにIATA（International Air Transport Association）国際航空運送協会といったものがあり、国際航空運航に関してのニュースには頻出であろう。機関名な

どは頭文字から作られた略語で記されることが多いため、分野ごとにどのような機関なのかを理解して英語に触れることは大切だと感じる。

二つの政治に関連した航空記事に触れたが、まず文章の書かれた国同士で事件の受け止め方の違いがあったのではないかと感じる。BBCよりもCNNの方が緊張感のある記事を書いていることは当事国であることの表れではないだろうか。米中関係が良好とはいえない中でのこの出来事に多少なりとも両国の衝突の危機感を抱いているのではないかと感じる。BBCの記事は、第三国として事件に関わる各国の言動や動向を取り上げ、どのように推移しているのかをシンプルに伝えているもののように思える。また、これまで本論では旅客を中心とした航空英語を取り上げてきたが、ここで軍事航空機の単語も取り上げた。飛行機が実用化された当初は旅客機よりも戦闘機が盛んであったために、使用される言葉もあまり違いはない。やはり、plane や aircraft の前にどのような単語をつけるかにより、言葉の使い分けが行われている。この記事から国家間に有効度によって国際線の運航の質にも関わってくることを実感する。

- ◆ BBC・9 December 2013 Last Update at 16:21 GMT・American Airlines and US Airways merger finalised.¹⁴
- ◆ CNN・December 8, 2013 – Updated 0647 GMT(1447 HKT)・American, US Air merger a go after Supreme Court refuses stay request.¹⁵
- ◆ BBC・7 December 2013 Last Update at 21:59 GMT・UK flight delays glitch 'now fixed' but delays continue.¹⁶
- ◆ CNN・December 7, 2013 – Update 1543 GMT (2343 HKT)・Air traffic control glitch delays flights at Heathrow, UK airports.¹⁷

ここには四つの記事があるが、これはアメリカ国内で起こった航空関連の出来事と、イギリス国内で起こった出来事を挙げている。これはそれぞれイギリスから見たイギリス国内とアメリカの出来事、アメリカから見たイギリスとアメリカ国内の出来事である。これらを比較し、どのような観点で分析され、どのように異なった言葉を使用しているのかということを見ていきたい。

まず、上記ふたつを比べる。このニュースはアメリカの航空会社アメリカン航空とUSエアウェイズの合併問題である。アメリカ国内では、この二社が合併し巨大企業になることが消費者にとって、航空券の値上がりや航空会社選び

の選択肢を減らすという悪影響を及ぼすと考えられた。その反対運動から、両社の合併は裁判に委ねられることになり、結果的に最高裁は合併を許可したというものである。BBCは幾分か客観的な見方をしている。合併に至るまでの道のりを説明した後に、新社長のインタビューとつなげている。裁判で争った要因に触れ、消費者側に不安は必要ないという訴えかけを強調している。さらに、合併後どれほどの大企業になるかに触れ、また最後にインタビューで締めている。アメリカ国内の出来事であるために、主観的意見を入れず、事実をわかりやすく伝えられていると感じる。CNNの記事は国内の出来事とあって短い文章ではあるが、合併に至る過程までが詳しいように思える。題名にSupreme Courtとあり、最高の司法機関に委ねられるほどの大きな合併だったとわかる。文章の最後には歳入、旅客数、移動距離、アメリカ大陸の飛行経路数まで最大の航空会社になると詳しく記されている。また、インタビューではなく、この合併が今後アメリカの航空業界にどんな影響を与えることになるのかという予測を立て、利用者目線でも記事が書かれている。BBCとCNN両方の文はともに短いものだったが、その短い文章の中でも言い換えは行われていた。BBCは二社の合併で生まれる新たな会社を *biggest airline* や *goliath* と表現し、CNNは *the world's biggest airline company*, *the largest airline* と言葉を変えていた。同じ言葉も記事によって多彩に表し、特にBBCは *goliath* と表し、航空業界に大巨頭の誕生を印象づけていた。

残る二つの文についても言及したい。イギリスのSwanwickにある航空交通局のシステムトラブルにより、イギリス国内の航空機能が麻痺してしまい、多くの人々が空港内で足止めを食らっているという内容の文章で、ヨーロッパ最大のトラブルだとある。文章中に出てくるNatsとは世界を代表する航空交通システムの会社であり、その会社が機能を停止することがどれだけの人々の足に影響を及ぼすかということをものがたっている。BBCの文章でまず目に留まった単語が、*short-haul flights* と *long-haul services* である *haul* は輸送距離や移動時間を意味する単語で、*short* や *long* が頭につくことで、短距離輸送や長距離輸送と限定的な言い方になる。さらにこの二つの単語は同じ一文の中で出てくるのだが、*flights* と *services* に言葉を言い換えている。同じ航空輸送を表すだけでも一文の中に知的な意識を感じさせられる。また専門的な航空用語として、CAA (Civil Aviation Authority) イギリス民間航空局とNats (National Air Traffic Service) あり、Natsは上記したとおりである。この

文章中には多くの地名や空港名が登場する。Heathrow / Gatwick / Stansted / Cardiff / Glasgow とあり、最初の三つの空港はロンドンに位置し、イギリス国内で年間利用者数が一番から三番までの空港である。さらに Cardiff はウェールズ、Glasgow はスコットランドと、イギリスの主要空港にトラブルが発生したと一目でわかるようになっている。また、主要空港の機能が麻痺したことによって地方空港までが影響を受け、Leeds Bradford / Doncaster Robin Hood / Newcastle airport も運航の遅れや、ロンドン行きの便には大きな影響が出ていることも付け加えている。さらに、Belfast International Airport / Dublin Airport にも欠航が出ていることも書かれ、イギリス本土の主要空港のトラブルがイギリス本土全体から、アイルランドまで波及したことがわかる。各地の情報を細かく伝えることでヨーロッパ最大の空港トラブルだと印象付けされる。この文章に細かく取り上げられていたものが、この空港停止状態による利用者への影響である。この状況を “it’s been nothing less than shambolic” と表現され、状況がどれだけめっちゃめっちゃなのか感じられる。人々の心境は、crying / distraught / angry / aggravated / nightmare と記されており、ただただ飛行機が飛ばないだけでも、人の心に大きなダメージを与えることを様々な形で形容することで印象付け、今回の事件も重い出来事であると考えることができる。CNN の記事は当事国である BBC の記事に比べると、内容の深さはそれほどない。しかし、私たちのように当事国ではない人々が読むのであれば、CNN の文章の方がいいのかもしれない。それは、話が集約され、端的に事件の内容を読み取ることができるからである。大枠で問題の説明をし、どのような影響が表れているかが書かれ、ツイッターの文章を引用し、当事者の声を拾い上げている。前半の文章で大まかな内容はつかむことができる。さらに、BBC の記事ではなかった Heathrow 空港、Gatwick 空港、Stansted 空港、Luton 空港の説明があり、場所、どれほどの規模を持った空港であるかが書かれているため、イギリス国内のことをあまり詳しくない人々でも読みやすい内容になっている。また、BBC と同じように周囲の空港への影響も書かれているが、有名な主要都市を挙げるだけでイギリス全土への影響を伝えている。

それぞれの国同士により書かれた記事をそれぞれ見てきたが、ごく単純に詳しい情報を求めているのならば、その国のニュース記事、表面的に知りたいたいのであれば、他国が書いた記事の方がいいのかもしれない。特に、自分がそれほど知識を持っていない分野の記事であれば、他国で書かれた記事がより、読み手が自分の立場に近い説明などが加わり、深い内容の文章とはなっていない

いと思われる。やはり当事国の記事は当事者意識や、常識というものが前提にあり、その国の人々には説明不要なことは省かれており、その知識を持ちえない人は苦勞を要すると思われる。航空に関する知識も、前半の文章では合併する会社同士はどのような規模の会社で、どのような経緯で合併に至るのかということを知っておくべきであり、後半の文章もイギリスの空港の規模や位置関係、故障したシステムがどのようなものかを理解した上で読み進めれば理解度が一層向上すると感じた。

この章のまとめとして、航空機の問題、政治的に日本も絡んだ航空関連の記事、英語を母語とするアメリカ、イギリスそれぞれの航空記事を扱った。BBCとCNN お互いの文章を読むことで、片一方の記事だけでは得ることのできなかった情報を得ることができるということがあり、情報を得るためにももちろん、様々な同一の記事を読むことが大事だとは感じた。しかし、必要に応じて読み分けることも大切ではないかと思う。自分が求める分量はどれほどか、どれほどの知識量を自分が持ち合わせているかなどで、記事を選ぶことも一つ必要なことなのだと実感した。また、8つの記事を見たとき、航空の専門用語は航空業界で働かない一般の人々の目に触れるにあたっては、理解に苦しむ表現がなかったと感じる。このような文章中では、専門用語の有無の意識よりも、読者にわかりやすい形でどのように説明が行われているか、同じ意味の言葉でもどのように言葉の言い回しが行われているかなどに着目することが大切である。

結論

第一章からここまで、様々な角度から、英語における航空用語として考察を行ってきた。ここで本論文の総括を行いたい。

◆第一章考察結果

・航空用語と船舶用語の結びつきの強さは両者に用いられる言葉の語源を紐解くことで解明されるものとなった。飛行機に関連した語句の多くに、昔は船舶用語として使用されており、設備には特に残っている。船と用途の似たものにはそのまま借用が行われているなど、大型輸送で世界をつなげるという意味では、今日でも大きな役割を果たしている両者の英語にお

ける言葉のつながりを感じた。

◆第二章考察結果

・航空英語には多くの複合語により成り立っているものが多い。それは航空用語が、比較的新しい言葉であるということが要因にある。船舶用語から借用した言葉にも、キーフレーズである air などの航空を表す言葉を付与することで、航空特有の言葉として変化を生む。やはり、ゼロから新しい言葉を誕生させることは非常に労力を必要とすることから、新しい言葉の誕生に複合語とはとても便利なツールである。その言葉に触れる側の人間も理解をしやすいものだと感じる。

◆第三章考察結果

・航空独特の表現を行う言葉を取り上げたが、借用により誕生した表現の多さを感じた。特に同じ業界である、運輸・交通分野である。専門用語は乗り物が違えども、その分野間で借用され、それぞれの表現として使われる。同分野間での相互関係は事業の上だけでなく言葉の面でもつながりを感じる。

◆第四章考察結果

・四章では航空用語のイギリス英語とアメリカ英語における違いについて考察を行った。それぞれ、綴りが違うものや、アルファベットの欠落などの微妙な違いが表れていた。そこにはイギリスとアメリカの歴史的違いがあった。イギリスの保守的思考のために、イギリス英語の航空用語は船舶用語の名残があるが、アメリカ英語は改革的考えを持っているために、より合理的な表現となっている。アメリカ英語はイギリス英語の綴り字と発音の違いを可能な限り近づけるために、不要なアルファベットの省略を行っている。イギリス英語とアメリカ英語の違いには、二国間の歴史の差があった。アメリカはイギリスから完全な独立を果たすために政治的だけでなく、言語的にも変化を起こした。そのため、航空の専門英語の中にもイギリス英語とアメリカ英語の差が出ているのである。

◆第五章考察結果

・四章までの情報をもとに、アメリカのニュース記事、イギリスのニュース記事を比較し、専門知識を持っていない人々が受け取る航空英語はどのようなのか考察を行った。比較した記事の中に四章で扱ったような、英国と米国間による言葉の違いは感じられなかった。さらに、ニュース記事における専門用語は語句から言葉の意味を把握できるような言葉が中心で、

その分野に精通していない人々でも理解に苦しむことはない文章であった。また、アメリカとイギリスの記事を比較することによって、他国の問題を知る際、どれだけその問題に対する知識を必要とするかによって、記事の選び方が変わってくるのではないかと感じる。当事国の文は詳しいが背景的知识を必要とし、他国の文は語句の説明は詳しいが深さはそれほどないと実感した。専門分野の文章であれば、特にどのような視点で書かれた文章であるかを考えて手に取ることが重要であると思われる。

航空用語における考察を行い、そこには船舶用語からの借用、比較的新しい言葉であるために既存の言葉にキープレーズを付け加え独自の用語とすること、出来るだけ近い言葉を航空用語に置き換えること、が航空用語を形作っていると実感した。また語源を遡り意味を理解することで、言葉の意味だけではなく、言葉の本質にも触れることができた。さらに英語にはイギリス英語とアメリカ英語との差異が存在し、その差が専門用語にも影響を及ぼしていることを理解した。その上で航空関連の記事に目を通したが、英米間での言葉の違いは感じられなかった。これは保守と革新での差はあるものの、世界の国際共通語としての英語の姿を現しているのではないだろうか。BBCやCNNといった国際ニュースを扱う報道局の英語の中にどちらかの国特有の英語を使用するという姿は顕著ではなく、言葉に差異があるような国同士の記事とは思えなかった。特に専門用語のように特有の分野で生まれた言葉や、航空英語のような比較的新しい分野の英語には異なった形は、今後より少なくなっていくだろうと感じる。また、航空用語の理解に関してはそれを取り巻く環境にも注視していかないといけないと感じる。航空であれば交通インフラとしての役割、経済に大きな影響を与える企業としての役割、国家間の関係に打撃を与える可能性さえ孕んでいる領空を移動する唯一の手段としての役割、それぞれに関連した情報も取り入れなければ、ほんの一端しか理解できないだろう。

私は大学を卒業し、来年度からは航空業界の一員として働くことになる。その中で、本論で取り上げた航空用語に触れる機会に巡り合うことがあるだろう。さらに、航空業界の知識を必要とする時が来るだろう。そんな時にこそ、今回取り組んだ意義を実感しつつ、英語と触れ合っていく所存である。

注

- ¹ 日本航空株式会社 航空豆知識第 58 回 2013 年 11 月 20 日閲覧。
<http://www.jal.co.jp/entertainment/knowledge/agora58.html>
- ² <http://dictionary.goo.ne.jp/>
- ³ 『英語語義語源辞典』 hijack に依る。
- ⁴ 航空業界では 2 レターという。空港はアルファベット三字 3 レターという。
- ⁵ ウィキペディア「空港ターミナルビル」。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A9%BA%E6%B8%AF%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%83%9F%E3%83%8A%E3%83%AB%E3%83%93%E3%83%AB> 参照。
- ⁶ *Mcgraw-Hill Dictionary of Aviation* の snag より。
<http://www.answers.com/topic/snag>
- ⁷ ウィキペディア「オープンスカイ協定」。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%BC%E3%83%97%E3%83%B3%E3%82%B9%E3%82%AB%E3%82%A4%E5%8D%94%E5%AE%9A>
- ⁸ 仲本秀四郎『専門用語概論』p.46 を参照。
- ⁹ アメリカの綴り字改革運動家。大石五郎『英語と米語』参照。
- ¹⁰ BBC - Homepage 2013 年 12 月 12 日閲覧。
<http://www.bbc.co.uk/news/business-24471093>

Boeing Dreamliner: Two JAL flights diverted after glitches
Japan Airlines (JAL) says it has turned around two of its Boeing 787 Dreamliner aircraft during flights due to technical problems.



On one plane one of the two anti-ice systems, which prevent ice building up around the engine, failed. Meanwhile,

The Dreamliner has been hit by a spate of technical and safety issues in recent months

an electrical glitch made six toilets unusable on another flight. These are the latest technical issues to hit the Dreamliner, which saw the entire fleet being grounded earlier this year following battery problems. The anti-icing system failed on a Tokyo-bound flight that took off from San Diego. A spokesperson for JAL told the BBC that a similar issue had forced a Tokyo-to-Singapore flight

to be turned back in June this year. Meanwhile, an electrical system failure connected to the lavatories affected a flight from Moscow to Tokyo. The failure resulted in six of the seven toilets on the plane not being able to flush. The airline said that it was looking into the problems.

Latest setback

The 787 Dreamliner has suffered a series of technical and safety problems in recent months. In January, its entire fleet was temporarily grounded. That move was prompted after a fire broke out on one of JAL's Dreamliners, and an All Nippon Airways (ANA) flight was forced to make an emergency landing



Battery problems resulted in the entire Dreamliner fleet being grounded earlier this year

because of a battery fault and a fire in one of the electrical compartments. Though the planes have since been allowed back into the air, other issues have emerged.

In July, a fire broke out on a 787 jet operated by Ethiopian Airlines while it was parked at Heathrow airport. It was traced to the upper rear part of the plane where a locator transmitter is located. Then in August, ANA said it had found damage to the battery wiring on two 787 locator transmitters during checks. US carrier United Airlines also found a pinched wire during an inspection of one of its six 787s. The issues have hurt Boeing. Earlier this week, JAL announced a \$9.5bn (£5.9bn) plane deal with rival Airbus. It is the first time that it has agreed to buy Airbus planes, having preferred Boeing for many decades. Analysts have hinted that issues with the Dreamliner may have played a role in JAL's decision. However, despite the issues the Dreamliner is still considered to be one of the most advanced planes in the industry and continues to remain popular. Boeing has received orders for more than 950 jets since its launch.

¹¹ CNN.com 2013 年 12 月 12 日 閱覽。

<http://edition.cnn.com/2013/06/27/travel/boeing-787-dreamliner-air-con-fault/index.html?iref=allsearch>

(CNN) – An All Nippon Airways 787 Dreamliner was held in Tokyo after a

mechanical problem, the fourth such incident for Dreamliners in 10 days. The plane was delayed Thursday after a cockpit message indicated a problem with the power supply to its air-conditioning system. More than 100 passengers who were supposed to fly to Frankfurt departed on a different plane eight hours after the scheduled departure time, ANA said. Earlier this week, a Denver-bound United Airlines Dreamliner was diverted back to Houston after a problem with its brake indicator. A week before, two United Dreamliners made unscheduled landings. A flight from Denver to Tokyo was diverted to Seattle because of an indicated problem with its oil filter. And a Houston-bound flight from London made an unscheduled landing at Newark's Liberty International Airport due to a "low oil indication."

In each case, the plane landed without incident and with no passenger injuries, Boeing said. The incidents come six months after the Federal Aviation Administration and other officials grounded the Dreamliner worldwide due to troubles with its battery system. "The 787 is a great airplane and we know it will continue to receive heightened attention when reliability events occur in service," Boeing spokesperson Yvonne Leach said Sunday.

Additional Dreamliners

The 787 Dreamliner began service in the U.S. in 2012. The entire global fleet of 50 Dreamliners was grounded in January after two battery overheating incidents triggered concerns among safety officials. Among the Dreamliner's innovative designs is a battery system that uses new, lightweight lithium-ion batteries. In April, the FAA ordered all 787 operators to make specific modifications. United has been flying its fleet of six 787s since May 20. United is the sole U.S. operator of the airplane, which boasts high fuel efficiency due to the lightweight carbon-composite materials used in its wings and fuselage. In an apparent show of confidence in the new airliner, United announced Tuesday that it's ordering 20 additional Dreamliners, specifically the 787-10 model, a longer version of the plane. The plane represents a new generation of efficient wide-body, long-range aircraft, helping to make it among the world's most heavily scrutinized aircraft. Airlines worldwide have committed to buying the plane, and hundreds of millions of dollars are riding on Dreamliner's success. On June 14, Boeing rival Airbus flew a similar airliner, its highly anticipated

A350 XWB, for the first time at its facility in Toulouse, France.

¹² BBC – Homepage 2013 年 12 月 12 日 閱覽。
<http://www.bbc.co.uk/news/world-asia-25087793>

Two Japanese airlines to disregard China air zone rules

Two of Japan’s biggest airlines have agreed to abide by a government request not to implement China’s new air defence zone rules, officials say.

All Nippon Airlines and Japan Airlines say that they will stop filing flight plans demanded by China on routes

through the zone, set up on Saturday. Japan says that China’s new air defence identification zone are “not valid at all” and should be disregarded. Singapore Airlines and Qantas have said that they will abide by the new rules.

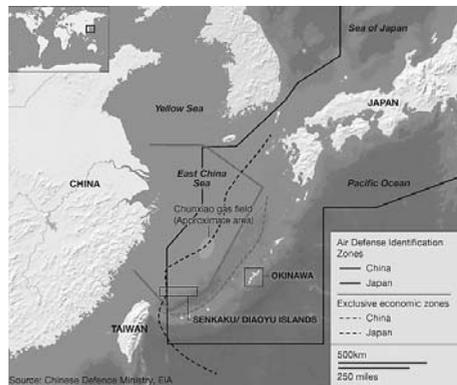
Disputed islands

Both All Nippon Airlines (ANA) and Japan Airlines have been informing China’s aviation authorities of flights through it since the weekend. But the two airlines now say that they will stop doing so from Wednesday. The zone includes disputed islands known as Senkaku in Japan and Diaoyu in China. Taiwan also claims the islands, which are controlled by Japan.

Part of the zone also overlaps with a submerged rock claimed by South Korea. China says aircraft entering the zone must obey its rules, which include providing a flight plan, maintaining two-way radio communications and clearly identifying their nationality. Aircraft who ignore the rules would be subject to



Both All Nippon Airlines (ANA) and Japan Airlines have been informing China’s aviation authorities since the weekend of flights through the zone



The new zone created by China covers disputed East China Sea waters.

“defensive emergency measures”, China’s Defence Ministry had said.

‘Not valid’

Japan has condemned the establishment of the zone as illegal, with Prime Minister Shinzo Abe on Monday calling it a “dangerous” act. On Tuesday, Japanese Transport Minister Akihiro Ota said China’s zone declaration was “not valid at all” and that Japanese airlines should not follow its stipulations. Foreign Minister Fumio Kishida said officials would be keeping communications open with airlines. “I believe it is important for the public and private sectors to cooperate in showing China our firm resolve,” he said. Singapore Airlines and Australia’s Qantas, as well as civil aviation officials from Hong Kong, Taiwan and South Korea said on Monday they would be informing Chinese officials of flights, Reuters news agency reported. China’s move has drawn criticism from several nations, including South Korea which claims a rock in the area. “I’d like to say once again that we have unchanging territorial control over Ieodo,” Defence Ministry spokesman Kim Min-seok said on Monday. Meanwhile, Australia summoned the Chinese ambassador on Tuesday to express opposition over the zone. “The timing and the manner of China’s announcement are unhelpful in light of current regional tensions, and will not contribute to regional stability,” Foreign Minister Julie Bishop said in a statement. “Australia has made clear its opposition to any coercive or unilateral actions to change the status quo in the East China Sea.” The US has also hit out at the move, with Defence Secretary Chuck Hagel calling it a “destabilising attempt to alter the status quo in the region”. China says the zone is aimed at defending its sovereignty.

¹³ CNN.com 2013 年 12 月 12 日 閱覽。

<http://edition.cnn.com/2013/11/30/world/asia/china-japan-us-tensions/index.html?iref=allsearch>

(CNN) – Three major U.S. airlines on Saturday confirmed that pilots were complying with Chinese government demands that it be notified of plans to traverse the newly declared air defense zone over the East China Sea. The demands from Beijing have resulted in tensions with Japan and the United States. On Saturday, United, American and Delta airlines told CNN that its pilots were following Washington’s advice and complying with Beijing’s “air

defense identification zone.” A senior official in U.S. President Barack Obama’s administration said Friday that commercial airlines are being told to abide by Beijing’s instruction, even if the U.S. government doesn’t recognize it. “We ... are advising for safety reasons that they comply with notices to airmen, which FAA always advises,” the official said.

Japan resists Chinese demand

Two major Japanese airlines have refused to comply with China’s declaration. The Japanese government said Saturday it has asked the International Civil Aviation Organization to address China’s designation of the new defense zone, the Kyodo News Agency reported. The Japanese Foreign Ministry said the government’s proposal at an ICAO meeting Friday in Canada called the Chinese zone a threat to aviation safety, Kyodo reported. Kyodo said Australia, Britain and the United States supported the proposal, with China opposed.

Fears of unintended consequences

The latest U.S. advice to comply with the defense zone requirements reflects fears that the back-and-forth between the two sides could have unintended consequences involving not just opposing troops, but innocent civilians as well. It’s a subtle change from two days earlier, when the State Department said “the U.S. government generally expects that U.S. carriers operating internationally” comply with other countries’ mandates, rather than directing them to.

OPINION: China’s balance between sovereignty and stability

Last Saturday, China announced the creation of the zone over several islands it and Japan have both claimed. The two countries have been sharply at odds over those isles, which are believed to be near large reserves of natural resources. Tokyo rejected the new zone, as well as Beijing’s insistence that aircraft entering it identify themselves and file flight plans. They were joined by South Korea and Washington, with Secretary of State John Kerry saying the move would “only increase tensions in the region and create risks of an incident.” Since then, there’s been no backing down. On Friday morning, for instance, China scrambled fighter jets after U.S. and Japanese military aircraft entered its disputed air defense zone, according to a Chinese military official.

U.S. military flights ‘not changing’

Col. Shen Jinke, a Chinese air force spokesman, said in Beijing that the two

U.S. and 10 Japanese aircraft were targets of monitoring in the zone. He said the Chinese air force and navy were identifying and monitoring all foreign warplanes in the zone. A U.S. military official told CNN that at least one U.S. unarmed military aircraft and several Japanese military aircraft flew through the zone Friday without incident. The official said the U.S. flight was part of scheduled routine operations. "This is status quo," the official said. "We are not changing what we are doing. We are not trying to make a point with China. We fly U.S. aircraft daily in international airspace in the region. This is normal." The official said the aircraft were not B-52s, though the United States did fly two of those type of planes through the zone Monday as part of what the Pentagon described as a preplanned military exercise. South Korea said its military sent a plane on a routine patrol flight into the zone on Tuesday without alerting China. A South Korean Defense Ministry official said such flights are carried out twice a week and would continue despite China's declaration.

Can China keep up the monitoring?

U.S. officials said they did not know how China would be able to monitor the flight zone, given its lack of midair refueling capability and limitations of its early warning radar aircraft. "It is indeed the right of every country to defend its airspace, and also to make sure that its territorial integrity, its sovereignty, are safeguarded," Liu Jieyi, China's ambassador to the United Nations, told reporters Tuesday. "This is a normal arrangement."

Why China's new air defense zone has incensed neighbors

On Wednesday, U.S. Ambassador to Japan Caroline Kennedy offered a different view: "Unilateral actions like those taken by China, with their announcement of an East China Sea air defense identification zone, undermine security and constitute an attempt to change the status quo in the East China Sea," she told reporters in Tokyo. "This only serves to increase tensions in the region." Japan and China have a lot at stake in maintaining their delicate relationship: Last year, trade between the two countries totaled more than \$333 billion, according to the Japan External Trade Organization.

¹⁴ **American Airlines and US Airways merger finalised**

American Airlines and US Airways have completed their long awaited merger to create the world's biggest airline.

It follows AMR Corporation, the parent company of American Airlines, emerging from its 2011 bankruptcy filing. Shares in the new company soared after making their debut on the Nasdaq exchange under the stock symbol AAL. The merger had previously been blocked by the US Justice Department (DOJ) over



The merger between the two companies creates the world's largest airline

concerns about competition in the sector. “Our people, our customers and the communities we serve around the world have been anticipating the arrival of the new American,” said new boss Doug Parker. Mr Parker had previously been the head of US Airways. “We are taking the best of both US Airways and American Airlines to create a formidable competitor, better positioned to deliver for all of our stakeholders. We look forward to integrating our companies quickly and efficiently so the significant benefits of the merger can be realised.” The two companies say they expect to save more than \$1bn in synergies with the merger.

New goliath

The new airline, which will be known as American Airlines, will provide nearly 6,700 daily flights to more than 330 destinations in more than 50 countries. It will have a combined workforce of over 100,000 employees. As part of the merger settlement with the DOJ announced in November, both US Airways and American Airlines agreed to give up several hundred slots at airports across the US. Those slots were intended for low-cost carriers such as JetBlue and Southwest Airlines, in order to keep prices low for consumers who might be hurt by the increasing consolidation in the US airline industry. Analysts cheered the news, noting that this was the final merger in a long series. Now, there are three main US carriers: United, Delta, and American. “With the merger of American Airlines and US Airways the long cycle of US industry reconstruction began in 1979 with deregulation is now complete,” Nexa Capital’s Ray Neidl told the BBC. “The public, as well as investors, will benefit from a financially strong industry which can now invest to keep its product updated and in international markets competitive with foreign carriers.”

¹⁵ CNN.com 2013 年 12 月 12 日閱覽。

<http://edition.cnn.com/2013/12/08/travel/american-us-airlines-merger/index.html?iref=allsearch>

(CNN) – The U.S. Supreme Court has cleared the way for American Airlines and US Airways to merge into world’s largest airline company. Late Saturday night, Justice Ruth Bader Ginsburg declined to hear a stay request filed by a consumer group opposing the merger. Earlier in the day, a federal appeals court in New York also denied an emergency stay – which prompted the consumer group to turn to the Supreme Court to block the deal. The passenger group believes that a merger will result in higher fares and reduced choices for fliers. With the Supreme Court removing the last roadblock, the two airlines can sign papers before the financial markets open Monday. For the foreseeable future, though, passengers will still be booking flights under both the American Airlines and US Airways names. Details about when the airlines will combine reservations and ticketing, frequent flier clubs and other operations are still being worked out, and those combinations are not likely until the beginning of 2014, at the earliest. But the combined company will be the largest airline in the world in terms of revenue, passengers carried and the number of miles flown by paying passengers, surpassing United Continental Holdings, which was also formed by a merger.

¹⁶ BBC – Homepage 2013 年 12 月 12 日閱覽。 <http://www.bbc.co.uk/news/uk-25281675>

UK flight delays glitch ‘now fixed’ but delays continue

A telephone glitch that caused hundreds of flights to be delayed has now been resolved, but disruption is continuing.

Thousands of passengers faced cancellations and long waits after the National Air Traffic Service (Nats)

internal phone system broke down. Affected airports included Heathrow, Gatwick, Stansted, Cardiff and Glasgow. Nats announced at 1930 GMT that



Some airlines are cancelling short-haul flights but trying to only delay long-haul services

the problem had been fixed, but some airports said delays could continue into Sunday. A passenger who said he had been waiting five hours at London's Gatwick airport earlier told the BBC that people had been "crying, distraught and angry". "One passenger has missed their sister's wedding," Tom Flatman, from Brighton, said.

'Severely delayed'

By 16:00 GMT Nats said it had handled 2,576 flights compared with 2,905 at the same time last week. Ryanair said 300 of its flights were delayed on Saturday with 12 cancelled, and called on the Civil Aviation Authority (CAA) to act. "While we acknowledge problems can occur, where is the contingency?" it said in a statement. Heathrow had cancelled 228 flights by 18:55 GMT, a spokeswoman said, adding that there was now an average one-hour delay for departures. By Saturday evening Gatwick airport said it was "returning to normal operations". A spokeswoman said it was "not expecting serious disruption" on Sunday. Delays at Stansted averaged two to four hours, a spokeswoman for the airport said, adding that schedules were expected to return to normal on Sunday but warning there could be "minor delays". No Easyjet flights have yet been cancelled but many were subject to delays. Eurocontrol - which manages European air safety - said around 1,300 flights, or 8% of all air traffic on the continent, had been "severely delayed".

Meanwhile, elsewhere: A spokesman said Manchester Airport had been "only minimally affected" and operations were now back now back to normal Leeds Bradford, Doncaster Robin Hood and Newcastle airports all reported minor delays, with flights to London worst affected Belfast International Airport and Dublin Airport reported a number of cancellations A spokeswoman for Birmingham Airport said around 60 flights were affected, the majority were delayed by under an hour. Nats said the problem at its Swanwick centre, in Hampshire, arose in the early hours of Saturday morning when the night-time operation failed to properly switch over to the daytime system.

"The problem that arose this morning with the ground communications system in the area control operations room at Nats Swanwick has now been resolved and operations are returning to normal," a spokesman said.

Biggest in Europe

The software failure happened when the 23 controllers working overnight were due to hand over to the 125 on the day shift at around 06:00 GMT. “To be clear, this is a very complex and sophisticated system with more than a million lines of software,” the spokesman added. “This is not simply internal telephones, it is the system that controllers use to speak to other [air traffic control] agencies both in the UK and Europe and is the biggest system of its kind in Europe.”

The BBC’s transport correspondent Richard Westcott said it was a totally different issue to a software problem that hit the control centre in summer. Nats head of operations Juliet Kennedy told the BBC: “We want to apologise to people. We are very aware of how much inconvenience this has caused people.”

‘Shambolic’

The CAA advised customers affected to contact the airline concerned to discuss their case. It pointed out that customers could claim assistance from their airline if they were delayed for several hours, including being given food and drink, usually in vouchers. At Stansted, Alena Kontza was stuck on a Ryanair plane that had been delayed for three hours. She told the BBC passengers had been given “absolutely no information” and “it’s been nothing less than shambolic”.



Passengers at Heathrow Terminal 5 queued as British Airways warned of delays



Some passengers at Gatwick Airport resorted to sleeping while they wait

13:35 Hyderabad	BA277	Drop bags from
13:40 Accra	AA6415	Drop bags from
13:40 Amsterdam	BA438	Please go to zon
13:45 Baltimore	IB4649	Drop bags from
13:50 San Diego	IB4659	Drop bags from
13:55 Madrid	LA5781	Cancelled
13:55 Basel	AA6584	Drop bags from

Nats said how quickly things would return to normal depended on individual airlines’ schedules



At Heathrow’s Terminal 3 the queues stretched outside the building

“People are really aggravated, children are crying, people want to leave, people want to change to different planes, it’s an absolute nightmare,” she said.

National Air Traffic Systems: “We are not able to meet the demands”
A spokeswoman for British Airways



said: “We are organising hotels for customers when appropriate. In addition, customers on cancelled services of course have the opportunity to claim a refund or rebook.” Independent aviation analyst Chris Yates said it had been a “trying and a very tough day”, adding: “There’s going to be a lot of hard questions asked of Nats over the coming days. “In the meantime we have to get back to a normal service.”

¹⁷ CNN.com 2013 年 12 月 12 日 閱覽。

<http://edition.cnn.com/2013/12/07/world/europe/uk-flight-delays/index.html?iref=allsearch>

London (CNN) – A technical issue at the UK’s air traffic control center in Swanwick is causing delays to hundreds of flights Saturday across the United Kingdom, including Heathrow Airport. The National Air Traffic Services said in a lunchtime statement that it had identified the problem and anticipated it would take until 6:30 p.m. (1:30 p.m. ET) to resolve. An issue with the center’s internal telephone system has resulted “in a significant reduction in capacity in some areas of UK en-route airspace,” it said. However, “Safety has not been compromised at any time.” NATS would normally have handled about 2,000 flights by noon on Saturday but was about 20% down as a result of the morning’s problems, it said, with about 1,700 handled. “We now understand what the problem is and our engineers are working hard to rectify the issues as quickly as possible,” the statement said. The NATS center at Swanwick handles flights for much of England and Wales, including the airspace around London which it says is one of the busiest areas in Europe. Stranded travelers voiced their frustration on Twitter. “Flight changed and pushed back twice. Delay of just two hours. Let’s hope it stays that way,” said Carolanner. A Heathrow spokeswoman said, “Flights from many UK airports,

including Heathrow, are subject to delay and cancellation. If you are flying today you should check the status of your flight with your airline.” Airport information boards indicated the problem is affecting departures to a greater extent than arrivals. Heathrow, to the west of London, is one of the busiest airports in the world, serving 70 million passengers annually according to its website. On average, around 191,000 passengers transited the airport daily in 2012. Gatwick, Stansted and Luton Airports in southeast England are also suffering disruption, as are other busy UK airports, including Birmingham, Manchester, Glasgow and Edinburgh. Dublin Airport in Ireland said it was also experiencing some flight delays and cancellations as a result of the problems in the United Kingdom. Low-cost airline Ryanair said on its website, “Ryanair has been advised of an equipment failure within UK Air Traffic Control which will cause significant flight delays and possible cancellations.” Transatlantic operator Virgin Atlantic said it was “experiencing some delays,” while shorthaul airline Easyjet said it was “experiencing severe delays to flights to, from and within the UK.” British Airways said the problem had caused delays to some flights and “led to significant shorthaul cancellations.” NATS said the technical problem involved its internal communications system. “At night, when it’s quiet, sectors of airspace are combined. As it gets busier in the daytime the sectors are split out again and additional control positions are opened to meet the traffic demand. “Because of the problem with the internal telephone system, it was not possible to open the additional control positions this morning, resulting in a significant reduction in capacity in some areas of UK en-route airspace.”

参考文献

- 舟津良行、『航空英語とジョーク』学生社、1995年。
ジーンズ、ピーター・D、『海に由来する英語辞典』飯島幸人・丹羽隆子訳、成山堂書店、2008年。
菊池清明編、『英語史：現代英語の特質を求めて－多文化性と国際性』関西人文科学出版会、2009年。
— 監修、『英語学：現代英語をより深く知るために－現代英語の諸相と英語学

術語解説』浪漫書房、2008年。

小島義郎他編、『英語語義語源辞典』三省堂、2007年。

仲本秀四郎、『専門用語概論－ターミノロジ』日本図書館協会、2005年。

日本航空広報部、『航空実用ハンドブック』朝日ソノラマ、2005年。

大石五郎、『英語と米語－どの違いを読み解く』丸善株式会社、1995年。

寺澤芳雄編、『英語語源辞典』研究社、1997年。

『月刊エアステージ』12月号 イカロス出版、2013年。

日本航空株式会社 航空豆知識第58回 2013年11月20日閲覧

<http://www.jal.co.jp/entertainment/knowledge/agora58.html>

BBC－Homepage 2013年12月12日閲覧

<http://www.bbc.co.uk/>

CNN.com 2013年12月12日閲覧

<http://edition.cnn.com/>

Goo辞書 2013年11月29日閲覧

<http://dictionary.goo.ne.jp/>

English of Aviatic Terminology: The Property of Terminology

Toshiki Tsutsumi

Abstract

In this thesis, I examine specialty words, especially aviatic terminology. The reason why I chose this subject is that I will get a job in an aviation company. So I examine aviatic terminology from different angles: etymology, compound nouns, differences between British English and American English.

In Chapter 1, I examine the etymology of aviatic terminology, a related terminology of shipping. The origin of aviation terminology was shipping words. I chose the same words of aviation and shipping and then examined etymology or relevance.

In Chapter 2, I referred to compound nouns of aviation terminology. In new words of terminology, a compound noun is so convenient. We need not be tired of making new words. For aviation terminology, "air" is an important part of the compound noun. So I analyzed air- words.

In Chapter 3, I referred to aviatic terminology not treated in Chapters 1 and 2.

In Chapter 4, I referred to the differences between British English and American English of aviatic terminology. I examined the history of English

words.

In Chapter 5, I read English article related aviation, BBC and CNN. I analyzed the differences between words or expressions of aviation terminology.